

## 第5学年 総合的な学習の時間 わくわくサポートプラン

令和3年10月22日（金）第3時限

授業者 石田 圭以輔

- 1 単元名 みんなが幸せに暮らすために、私たちができることは？
- 2 単元の目標（児童につけさせたい力）別紙参照
- 3 単元の全体計画（46時間完了）

学習過程	時数	活動内容
① ふれる	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福祉に関わる活動や体験を通して、様々な知識を得たり、疑問を抱いたりする。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「みんなが幸せ」とは、どのようなことなのかを考える。</li> <li>・ いろいろな特性をもつ「みんな」について知る。 (ソレイユプラザでの体験、アイマスク体験、車いす体験、耳が聞こえない体験など)</li> <li>・ いろいろな特性をもつ「みんな」と関わる時、どうしたらよいか考える。(車いすの方とかかわるとしたらどうするか)</li> <li>・ いろいろな特性をもつ「みんな」と関わってみる。 (アンプティサッカーの方との交流、NSA 日本語学校の方との交流)</li> </ul> </li> </ul>
② 問いの設定	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ふれる」の活動や体験をもとに、探究活動を進める上での問いやゴールを設定する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベン図で考えを整理し、誰のために、何をしたいか考える。</li> <li>・ ベン図をもとに、「ゴール」を設定する。ゴールはなるべく具体的に考える。</li> </ul> </li> </ul>
③ 企画書作成	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 設定した課題やゴールをもとに、探究活動の計画を立てる。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「調べる・調査する」「情報を整理する・みんなで話し合う」「作る・やってみる」「他の人に意見をもらう」という4つの学びのサイクルを考えた。</li> <li>・ 大きなサイクルをもとに、企画書（わくわくマップ）を作成する。</li> </ul> </li> </ul>
④ 探究活動	20 本時 (10/20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実際にゴールに向けて活動を進めていく。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企画書（わくわくマップ）に基づいて探究活動を行う。</li> <li>・ 学習履歴図を活用して、毎時の学習を振り返り、次の学習に活かしていく。</li> </ul> </li> </ul>
⑤ ふりかえり (グループ・個人)	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プロジェクト全体を振り返って、何を学んだか、つけたい力が付いたか、ゴールが達成できたか（ゴールにどれだけ近付いたか）、残った課題は何かを考える。</li> </ul>
⑥ 発表	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学んだ成果（振り返りを）を他者に発表する準備したり、他者に発表伝えたり（発表）する。</li> </ul>

## 4 本時の展開

### (1) 学習経過

#### ① ふれる

#### みんなが幸せって…？

5年生の総合的な学習の時間で学ぶテーマが「みんなが幸せに暮らすことができるようにするために、自分たちができることを考えていくこと」であることを伝えた。まず、「自分にとって幸せだと感じることは何か」を一人一人考えさせた。「You Tube を見ているとき」「友達と遊んでいるとき」や「おいしい食べ物を食べているとき」「たくさん寝ているとき」など、様々な意見が出た。児童から出た意見を基に、幸せを、「自分が『楽しい』『うれしい』と感ずること」と「当たり前の日常を送ることができること」の二つに分類した。その後、「『みんな』とは誰がいるのか」を考えさせると、「大人」「子ども」「おじいちゃん」「目が見えない方」など様々な人が出てきた。授業の最後に、「みんなが、当たり前、楽しく過ごすことができるようにするために、自分たちができることを考えていこう」と児童に伝え、1・2学期の見通しをもたせた。

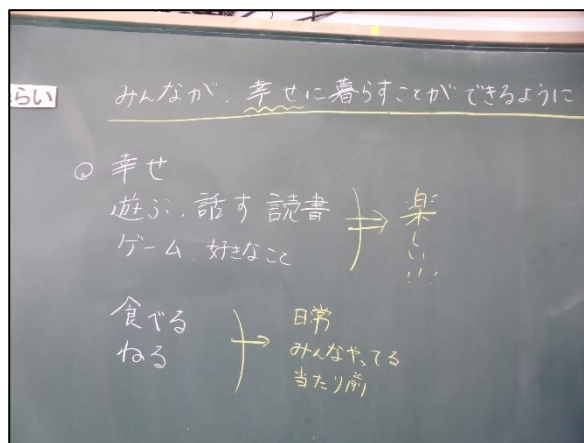


図1 児童から出た幸せとは

#### 「みんな」について知ろう

#### 《ソレイユプラザ名古屋での体験》

ソレイユプラザ名古屋では、「人権についての話」「高齢者・妊婦・白杖・車いす・ボッチャ体験」を行った。人権についての話の中では、人権は誰もがもっている、幸せに楽しく生きる権利であることを学んだ。さらに、目が見えない方が困っているときの声の掛け方についても動画で見て、学ぶことができた。人権の話聞いた後、感想として「障がいをもっている人も、もっていない人も互いに助け合うことが大切」「体がどんな状態でもできるスポーツを作ったりすることで、みんなが楽しく、生きることができるんだ。それが人権のかな？と気付くことができた。」などの記述が見られ、人権について理解しようとする児童の姿が多く見られた。



図2 ソレイユプラザでの体験の一部

妊婦や白杖など様々な体験を通して、それぞれの方の大変さを少し理解することができた。しかし、短時間の体験であったため、ただ楽しく体験しているだけの児童もいた。

#### 《目が見えない体験（アイマスク体験）》

校内で体験者と補助者の二人一組になって、アイマスク体験をした。なるべく、学校生活に近いことをさせたかったため、「朝登校してから授業の準備をするまで」を意識して、教員が内容を考えた（下駄箱で靴を履き替える・階段を登る・手を洗う・ランドセルの中の荷物を机の中に

しまう・音楽の授業の用意をする)。廊下や階段は普段は普通に歩くことができるが、アイマスクをしていると、怖がりながらゆっくり登る様子が見られた。また、音楽の用意をするときには、どこに自分のファイルがあるのかを探すのにかなり苦労していた。体験後、「暗くて危なかったから、すごく怖かった」「アイマスクをつけると視界に物や人などが見えなくてとても怖かった。特に学校では階段などを当たり前のように登っていたけどアイマスクをつけて目が不自由な人と同じ気持ちになってみて、とても大変だと分かってよかった。目が不自由な人がいたら助けてあげたい。」「ランドセルや階段を登るときなどは、補助の人がいてくれるとすごくうれしかった」などの感想をもつ児童がおり、実際に体験したからこそ分かる、怖さやその時の気持ち、補助の方の大切さを理解することができた。



図3 校内でのアイマスク体験

#### 《足を使わない体験（車いす体験）》

車いす体験では、校舎周りや校舎の中を車いすを使って移動したり、段差やスロープがある場所も通ったりした。正門を出てすぐの歩道では、普通に歩くときは気にならない傾きも、車いすを使うと、なかなか真っすぐ進むことができず、かなり大変であることに気付く児童が多かった。また、段差があるところでは、一人では上がることができず、補助をする友達に手伝ってもらっていた。スロープを上るときも、かなり力を使って上っている様子が見られた。体験後、「やる前は簡単で楽しいかと思っていただけで、だんだん腕がつったり疲れたりしてきました。ほんの少しの段差でもとてもスピードが出て怖かったです。どうってことなかった、スロープも、登るのには力が必要だったし、降りるのも怖かったです。この体験で車いすの大変さが分かりました。私たちの当たり前が車いすの方には当たり前ではないことが分かりました。また当たり前は人それぞれだということに気付くことができました。」「普通の道でもまっすぐ進むことができなかつたし、いつも気にならない低い段差や坂道が腕に力を入れなくて1時間も乗ってないのにすごく腕が疲れた。車椅子に乗っている人は、毎日していると思うとすごいと思った。普通に歩けることがこんなに幸せだと知らなかつた。」などの感想をもつ児童がいた。



図4 校内での車いす体験

#### 《音が聞こえない体験（耳が聞こえない方の体験）》

耳が聞こえない方の体験をするために、合図があるまでは、「声を出さない」「音を出さない」というルールの中で話し合いを行った。話し合いの議題は、①話し合いの司会者を定める②休み時間に学級全員で遊ぶなら、鬼ごっこかドッジボールか（理由も考える）③留学生に出す給食のメニューは何がよいか（理由も考える）、の3つである。児童は、声を出さずにどのようにしてコミュニケーションをとったらよいか悩みながら行っていた。紙に書いて伝えたり、アイコンタクトやジェスチャーで行ったりするグループもいた。タブレットも持っていたので、タブレッ

トを使ってやりとりをするグループもあった。話し合い後、話し合ったことを発表したが、これも声を出さずに行ったので、苦戦していた。前で発表すると、伝えたい人の距離が遠くなるので、困っているグループが多かった。最終的には、ホワイトボードに書いて見せて回ったり、大きく書いてその場で見せたりするなど、工夫して取り組んでいた。体験後、「タブレットがなかったら、うまく伝えられなかったと思う」「相手に伝えることも、相手の言葉を聞くことも難しかったし、とても時間がかかった」などの感想をもち、コミュニケーションをとることの大変さに気付くことができました。

### 「みんな」と関わるとき、どうしたらいい？

#### 《もし車いすの方が学校に来るなら》

マセソンさんという、元パラリンピアンの方が、もし学校に来校する場合、どのような心配事や困ること、またそれに対する改善策を考えた。「車いすだと、門が開けられないのではないか」「私たちが門でお出迎えする」など、一人一人が考えた困りそうなこと（心配なこと）やその解決策を発表した後、最も困ることは何だかと思うかと聞いた。児童は「電車とホームの間」「トイレ」「歩道の道幅がせまいこと」などと答えた。

	心配なこと	解決方法
移動の時	電車	車掌の係員さんに連絡して、乗り降りができるように板を置いてもらう。
だいたいついていって、何かあった時にすぐにお手伝いができるようによりそう。	校門	お迎えに行く。
	学校の入り口	手伝う。車椅子を押して。
	体育館の入り口	スロープがあるからそこで停めたりしないか確認する。
	トイレ	ついていって、女の先生に手伝ってもらう。
ついていく	階段	エレベーターがあるからそこに一緒に乗っていただく。
何かあった時に危ないから、ついていって、電車の時いるんな人に協力してもらう。	教室の中	机が邪魔だからちょっと動かして、おすく移動ができるようにする。

図5 車いすの方が学校に来たら？

#### 《車いすの元パラリンピアン動画から考える》

その後、マセソンさんのメッセージ動画を見せた。動画の中でマセソンさんは「一番困ることは、かわいそうな人と思われること、車いすだから無理なんだろうと決めつけられること。車いすに乗っているだけで、大変そう、かわいそうと言われるのは、とても嫌である。また、勝手に決めつけられるとイラッする。その人が何に困っているかは、その人に聞いてみないと分からないことを忘れないで」と話していた。「勝手に決めつけられるとイラッとする」という話を聞いた際、「私も！」「分かる！」と発言していた児童がいた。

動画の感想を児童に聞くと、「自分の行動で相手を傷つけちゃうかもしれない。」「『できない』『～してあげる』は上から目線。実際には相手に聞かないと分からない。」「自分たちが車いすの体験をしたからこそ、できないって思ってしまう。だめだと思うけど。どうすればいいか分からなくなってしまった」などと話していた。動画を見ているときに、「分かる！」と言った児童の発言を取り上げ、「できないだろうって決めつけられたらイラッとする。やっぱり、車いすの方もみんなも一緒なんだよね。」と話し、それに対して、「同じ人間なのに『～してあげる』という上から目線は良くない。」と発言する児童もいた。

#### 《原市紘奈さん（車いすの方）が小学生のころの話から考える》

車いす利用者（原市さん）が小学生のとき、原市さんのクラスで、「みんなでドッジボールをしよう」ということになった。「もし、みんながクラスメイトならどうする？」と聞き、ワークシートに自分の考えを記入した。その結果、「別の遊びを考えた」（10人）、「原市さんにどうしたいか聞く」（6人）、「ドッジボールの新しいルールを考えた」（3人）であった。別の遊びを考えたある児童は、「原市さんは足が不自由な人だから、原市さんができる、別の遊びを考えたほうが良いと

思う」と原市さんがドッジボールができないと決めつけてしまっていた。原市さんにどうしたいか聞くと答えた児童に理由を尋ねると、「決めつけられると嫌だから、本人に聞かずに決めるのはよくないから」と答えた。

その後、教材の続きを紹介し、実際には「原市さんには当てない」という特別ルールを作ろうと提案があったことを伝えた。この提案について、みんなが原市さんだったらどう思うかを聞き、ワークシートに記入した。「自分だけ特別扱いされ、おもしろくない・モヤモヤする・嫌な気持ち・楽しめない」(19人)、「ありがとう・うれしい」(5人)、「悲しい・悔しい」(3人)、「それならやりたくない・やらない方がよい」(3人)などと児童たちは考えた。

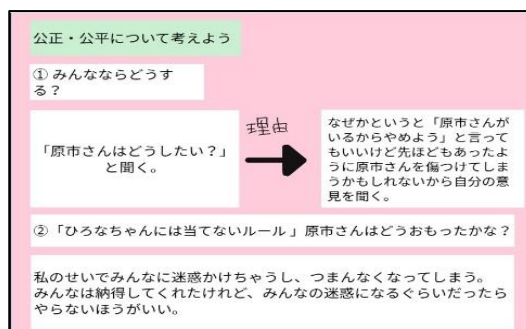


図6 原市さんが小学生のころの話から考える

### 《車いすのしょうたさんが楽しめる玉入れのルールを考える》

パラリンピアン別の教材を用いて、車いすのしょうたさんが楽しめる運動会のルールを考えました。「みんなが椅子に座って、玉入れをする」「しょうたさんのために玉を拾う」「あらかじめボールが入ったカゴを渡しておく」など様々な意見が出た。その後、玉入れのルールを考える際に大切にすることを記入させた。その結果、「特別ルールは作らない・特別扱いはしない」

(16人)、「本人の意見を聞く」(14人)、「みんなが楽しめるように・納得できるように」(9人)、「平等・公正・公平になるように」(7人)、「本人が嫌な気持ちにならないように・楽しくなるように」(6人)、「決めつけない」(6人)であった。

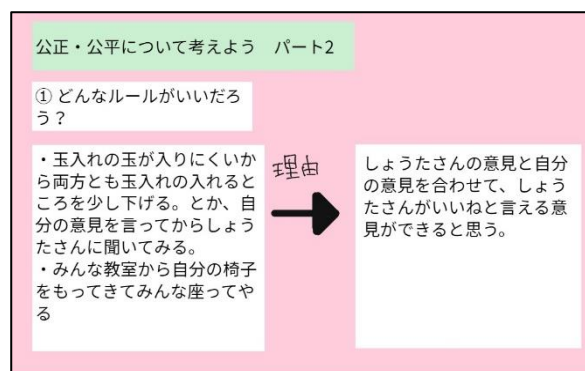


図7 車いすのしょうたさんで行う玉入れのルールを考える

### 「みんな」と関わってみよう!

#### 《アンプティサッカーの方との交流》

下肢障がいの方に来校してもらい、アンプティサッカーの出前授業を行った。実際にクラッチを使い、走ったり、ボールを蹴ったりしてアンプティサッカーの体験を行った。また、下肢障がいの方にボールを蹴る姿や走る姿を見せると、「走るの速い」「すごい!」と驚きの声があがった。授業の最後に、「普段大変なことは何か」の質問を聞くと、「膝をまげることができないから、階段を上り下りするのが大変」という答えであった。

授業後の感想では、「大変だとわかった・不便だと思った・苦労している」(9人)、「(アンプティサッカーや片足で起き上がるのが) 難しかった」(9人)、「下肢障がい者や彼が素早く動き回れること、アンプティサッカーが上手なことが」すごいと思った」(7人)、「楽しかった・おもしろかった」(6人)、「障がいのある方でもスポーツができる」(3人)であった。障がいをも



図8 アンプティサッカー体験

っている方でも同じようにスポーツができたり、自分たちよりも動くことができたりする姿を見たり体験したりしたことで、障がいをもっている方の「すごさ」を感じることができた。

### 《NSA 日本語学校の方との交流》

NSA 日本語学校から、6名の留学生が来校した。1組・2組それぞれで行ったため、それぞれの学級に3名ずつ入り、質問や交流を行った。児童は、日本に来て困ったこと、日本のよいところ、日本の第一印象、母国と日本の類似点・相違点、母国の食べ物など、あらかじめ用意しておいた質問を留学生に聞いた。留学生が答えることに対し、児童は一生懸命に聞く姿が見られた。時間が少し余ったため、アドリブでいくつか質問をしたが、自分たちの質問の内容がうまく伝わらないことが多く、同席していた日本語学校の職員の方に、簡単な日本語に直してもらい、答えてもらう様子が見られた。

その後、グループごとに分かれ、「おもてなし」を行った。カルタをしたり、けん玉やこまなどの昔遊びをしたりしながら、留学生の方と楽しく遊ぶ様子が見られた。留学生の方も笑顔でとても楽しそうであった。体験後、「質問する時に上手く伝わらなかったで、外国の人たちに通じるようにはどうすればいいのかが分からなかった。日本語学校の先生がいたから外国の人たちが納得してできた（話せた）んじゃないかと思った。」と感想を書いた児童があり、「疑問に思ったこと」に「どうやったらうまく外国の人に通じるかが知りたい。」と書いていた。外国人＝困っている人という先入観をもち交流したことで、何かをしてあげるということではなく、互いにうまくコミュニケーションを取るにはどうしたらいいかという思いを抱くことができた。



図9 NSA 日本語学校との交流

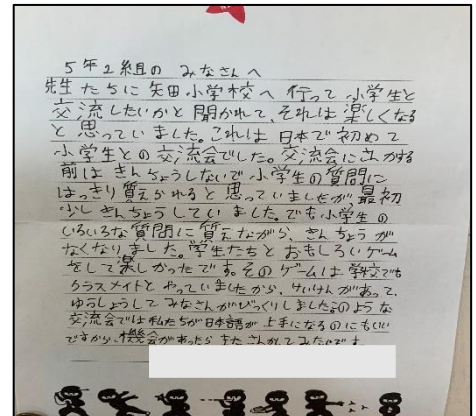


図10 NSA 日本語学校の学生からの手紙

## ② 「問いとゴールの設定」

### ベン図を使って整理する

「ふれる」の活動を行った後、テーマやゴールを考える前に、一度考えを整理するために、「自分が幸せな時」「誰のために」「どうする？何する」のベン図を使って、自分が今後探究をしていくときに、どのようなことをしていきたいか考えさせた。「幸せな時」には、ほとんどの児童が「当たり前の日常ができる」「うれしい・楽しい」ことに関することを記述していた。「誰のために」の部分は、「目の不自由な方」「耳の不自由な方」「外国の方」などを記述していた。「どうする？何する？」の部分には、「遊ぶ・楽しむ・遊びを考える・おしゃべりする」(20人)、「手伝う・介助する」(13人)、「介助方法について伝える・体験してもらう」(8人)、「体験する・相手について知る」(3人)と記述した。

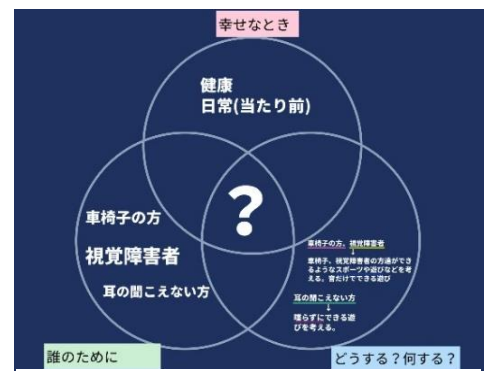


図11 考えを整理するためのベン図

### テーマ・ゴールを設定する

前時に作ったベン図を基に、テーマ・ゴールを考えさせた。対象は、交流先をしぼるため「目の見えない方」「耳の聞こえない方」「外国の方」「車いすの方」の4つの中から、なるべく選択するように、児童に声を掛けた。児童は、右の図のように、テーマとゴールを設定した。しかし、ゴールが具体的でなかったり、なぜそれを行うのかがあまり明確でなかったりした児童もいた。

そこで、次時に「～のために（～と一緒に）」「何をする?」「理由」の三つが書くことができるワークシートを用意し、記述させたことで、「なぜそれをするのか」を明確にすることができた。

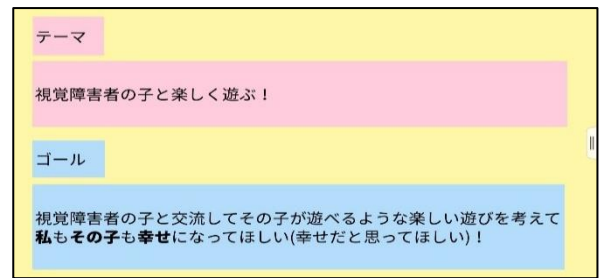


図 12 ある児童のテーマ・ゴール

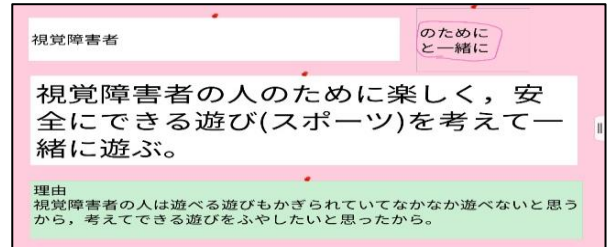


図 13 ある児童のゴールと設定した理由

### 自分たちで考えて、グルーピングする

一人一人のゴールが設定できたところで、グループを決めた。グループは、自分たちで決めるようにさせた。グループ決めのポイントは、①対象が同じ②ゴールが似ている③人数は、4～7人程度で組むようにさせた。自分たちで話し合い、グルーピングすることができた。

### 企画書(わくわくマップ)を作成する

グループが決まったところで、わくわくマップを作成するようにした。わくわくマップを作る前に、ゴールに向かうまでの、大きなサイクルを子どもたちに考えさせた。

教師が、「ゴールが、『車いすの方と一緒に遊ぶ』のところは、いきなり遊びを考える?」と児童に問いかけると、多くの児童が首を振った。「じゃあどうしていこう?」と聞くと、「まずは、当事者にインタビューする」「自分たちでも体験してみる」「本やインターネットで調べる」などの意見が出た(①調べる・調査する)。「次は、どうしていこう?」と聞くと、「調べた情報を整理する」「調べたことから、みんなで考える」などの意見が上がった(②情報を整理する・みんなで考える)。その後も、「次は実際に作ってみるといいんじゃない?」(③作る・やってみる)、「違う人に意見をもらうことも大切だ」(④他の人から意見をもらう)と意見が出て、授業の大きなサイクルをみんなで考えていくことができた。そのサイクルをもとに、わくわくマップを作成するようにした。

問い	ゴールにおいて 取り組む			ゴール
	調べる・調査する	情報を整理する みんなで考える・話し合う	作る・やってみる	
★対象は誰?  <b>車いすの人</b>  ★テーマは?  <b>車いすの方のために手助けできる人を増やして生活が便利で幸せにいられることを伝える。</b>	1 車いすの大変さや生活の中で困ったことや嫌なことを実際に学校の車いすに乗っている子(子供)にインタビューする。  2 車椅子の人に何をしてほしいか、何をしたら楽(幸せ)か意思を聞く。(願い)  3 大人の車いすや子供のころの車いすどう違うのが聞く。(大人)	調べる、調査するで得た情報をどうしたらわかりやすく漫画に描くことができるか話し合う!	どうやったら分かりやすく、どうしたら興味を持ってくれるか考えて漫画を作る。	★ゴールは? (何ができたらOK?)  漫画を図書室において読んでもらって車いすの方が少しでも幸せになれるようになる。
	1 こうしてもらいたい ○○してほしいか聞く。  1 子供でも手伝えるようなことを聞く。		実際に車いすに乗っている(インタビューした子)に(車いすのことや、どんなところが日常生活などで大変かどんなことをしてもらったら便利かなど)意見をもらう。  クラスに車いすに乗ったことがある人に意見をもらう。  インタビューした人に、伝えたいことが伝わっているか確認する。	

図 14 あるグループが作成したわくわくマップ

(2) 展開

展開	主な学習活動
<p>見通しをもつ (5分)</p>	<p>1 学習をスムーズに進めるために、学習履歴図やわくわくマップを使って、本時の学習の見通しをもつ。</p> <p>今日は、主にどれを行う活動かグループで決めたかな？</p>  <p>わくわくマップ</p>  <p>はい。今日はみんなで、「作る・やってみる」の活動を頑張ります。</p>
<p>探究活動 (35分)</p>	<p>2 探究活動を行う。</p> <p>今日は大人の方がたくさんいるから、聞いてみようよ。</p>  <p>娘がいるんですが、つわりがひどいときは、大変でしたよ。</p>  <p>お腹の中に赤ちゃんがいたときに、辛かったことはありますか？</p> <p>これだったら、外国の人にもごみの分別が分かるゲームになるんじゃないかな。</p>  <p>目が不自由って大変だけど、このゲームなら楽しんでもらえるかも…。</p>  <p>車いすの人も楽しくダンスをすることができるってことだったけど、考えることができたかな？</p>  <p>考えることはできたけど、もっとこうするといいかなというところが出てきたよ。</p>
<p>振り返り (5分)</p>	<p>3 本時の振り返りをする。</p>  <p>今日の自分の達成度はこのくらいかな。</p> 



# 学習履歴図

<p>ログブック 学習りれき図 (例) 毎回の綿白の活動を振り返り ましょう。</p>	<p>プロジェクトのゴールを書きましょう。 車いすの方を楽しんでもらうために、みんなで一緒に遊べる遊びを 考え、みんなで遊ぶ。</p>		<p>つげたい力を書きましょう。 ① 解決のための計画を立てることができる ② 課題解決に粘り強く取り組みることができる ③ 友達と協力して課題を解決することができる</p>			
	<p>9月22日</p>	<p>9月29日</p>	<p>10月3日</p>	<p>10月6日</p>	<p>10月9日</p>	<p>○</p>
<p>(1) 今日できたこと・分かったこと (2) 次回取り組みたいこと (3) 自分がつけた力はあったか?</p>	<p>(1) 車いすの方は、下に落ちているものを拾ったり、高いところにあるものをとったりすることが難しいなど、実際に体験して理解することができた。 (2) 次回は、車いすの方と一緒に遊べる遊びを調べたい。 (3) ① ◎</p>	<p>(1) 車いすの方ができそうな遊びは、調べても全然分からなかった。 (2) 次も、一緒に遊べる遊びを考えたい。 (2) ◎ △</p>	<p>(1) 車いすの方が、できそうな遊びを自分たちで一から考えてた。思ったよりも思いつくことができた。 (2) 次は、自分たちが考えた遊びを、違うグループに取り組みてもらいたい。 (3) ①◎</p>	<p>(1) 違うグループの人に、実際に試してもらい、アドバイスをもらった。今考えている方向性で大丈夫だと分かった。 (2) 友達からのアドバイスをもとに、もう一回考えてみて、遊びを完成させたい。 (3) ◎◎</p>	<p>(1) 遊びを改良することができ、楽しい遊びを作り上げることができた。 (2) 実際に、車いすの方に体験してもらい、アドバイスをもらいたい。 (3) ◎◎</p>	

## 5 各グループのゴール一覧

プロジェクトの対象	ゴール	ゴールを達成することで、どんな良いことがあるか?
車いすの方① (子ども)	車いすに乗っている子のために、クラスで流行っている遊びやその子がやりたい遊びをもとにした遊びを考え、一緒に遊ぶ。	車いすに乗っている人は、あまり遊べていないのではないかと?ゴールがクリアできたら、元気に遊ぶことができ、楽しい気持ちにすることができる。
車いすの方② (子ども)	車いすの子と一緒に楽しく遊ぶ。	足が不自由な人と、楽しく遊ぶことができることで、みんなハッピーになる!
車いすの方③ (大人)	車いすの方と一緒に遊んだり、ダンスを踊ったりして楽しみたい。	車いすの方と一緒に遊ぶんだりダンスをしたりすることで、幸せな気持ちにすることができる。
車いすの方④	車いすの方の大変さやすごさなどを、漫画を通していろいろな人に伝え、実際に行動してもらえたらゴール	車いすに乗って生活している人の暮らしがより楽になり、安心して生活できる。
妊婦さん	妊婦さんのお大変さや大切さを1~2年生に劇で伝える。みんなが妊婦さんを助けられるような環境にしたい。	妊婦さんが、困ることのない環境を少しでも作ることができる。また、大切さを理解してもらえることで、少しでも助けてもらうことができるようになる。
耳の聞こえない方①	①手話でコミュニケーションをとって、一緒に楽しむ。 ②耳の聞こえない方の困ることをなくしたい。	楽しんだり、困ることがなくなることで、うれしい気持ちになり、幸せにつながる。
耳の聞こえない方②	一緒にダンスをしったり、遊んだりして楽しませる。ダンスかオリジナルしりとりか選んでもらって、一緒に楽しむ。	耳の聞こえない方とダンスやオリジナルしりとりをして一緒に楽しむことで幸せな気持ちになる。
外国の方①	①日本の遊びでたくさん遊んで楽しんでもらう。自分たちも外国の遊びを教えてもらって、クラスで紹介しみんなで遊ぶ。 ②クイズ形式で、楽しく日本語を教えたい。外国の言葉を教えてもらって勉強したい。	①日本の遊びや文化を知り、日本の楽しいところを知ってもらおう。自分たちも楽しく外国の文化を学ぶことができるからうれしい。 ②楽しみながら、日本語を勉強してもらおうことができる。
外国の方②	外国の方が日常で困っていることや文化の違いなどで困ったことなどを解消したい!	困ったことを少しでも解消することができることで、困ることのない環境を作っていくことができる。そうすると、当たり前な生活を送ることができ、幸せにつながる。
目の見えない方①	目の見えない方のお大変さやできること、あったときにどうしてほしいのかを聞く。聞いたことを3年生に体験会を開いたり、ポスターをかいりして伝える。	目の見えない方の気持ちについて、他の人に知ってもらえることができる。伝えられた人が、実際に目の見えない方に会ったときに、どうしたらよいか分かる。
目の見えない方②	目の見えない方と一緒に遊べる遊びを考えて、一緒に遊ぶ。	一緒に楽しく遊ぶことで、うれしい気持ちにすることができる。

## 6 つけたい力

評価規準	具体的な姿
わくわく発見力	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や学習のなかから疑問を発見することができる。</li> <li>疑問を解決することにわくわくすることができる。</li> </ul>
わくわく解決プランニング力	<ul style="list-style-type: none"> <li>解決のための見通しやゴールをもつことができる。</li> <li>解決のための計画を立てることができる。</li> </ul>
わくわく探究力	<ul style="list-style-type: none"> <li>集めた情報を分類・整理することができる。</li> <li>分類・整理した情報から、自分なりの考えをもつことができる。</li> <li>課題解決に粘り強く取り組む。</li> </ul>
伝えたいことを表現する力	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることができる。</li> <li>自分の考えを適切な方法で表現することができる。</li> </ul>
他者と関わる力	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと協力して課題を解決することができる。</li> <li>友だちの意見や考えを自分の思いや考えと比較しながら聞くことができる。</li> <li>自分と異なる意見や考えを大切にしながら他者と関わるることができる。</li> </ul>
自己を見つめる力	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びを振り返りながら、ゴールに向かうことができる。</li> <li>学んだことを生活や学習に活かすことができる。</li> <li>社会・地域の一員として考え、行動することができる。</li> </ul>

## 7 会場図

